

【1.体制】

<訪問リハビリテーション事業所・通所リハビリテーション
コンパス>

医師：1名（専任） 看護師：1名（専従） 理学療法士：3名（専従） 作業療法士：5名（専従） 言語聴覚士：1名（兼務） 介護福祉士：2名（専従） 計13名（2023年4月）

【2.取組内容と実績】

2022年度、在宅介護支援事業（訪問リハビリテーション、以下訪問リハ、通所リハビリテーション、以下通所リハ、介護予防事業、以下、筋力up教室）は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、職員の就業制限や利用者の利用制限など、大きな影響を受けたが、様々な対策を講じ、在宅介護支援事業の持続、また、利用者の安心安全な在宅生活の継続に対する支援を行った。

1. 訪問リハビリテーション

（1）2022年度訪問リハの依頼状況と利用者属性

総依頼件数58件（新規依頼件数）
（男性26名、女性35名 平均年齢79.7歳（男性82.2歳、女性85.8歳））

表-1 訪問リハ依頼件数の変化（新規依頼）

年度	2018	2019	2020	2021	2022
依頼件数	102	97	83	61	58

表-2 訪問リハ実施件数（延べ件数）

年度	2018	2019	2020	2021	2022
依頼件数	4,081	4,306	4,187	3,811	4,164

（2）訪問リハ実施件数の推移

訪問リハの新規依頼件数は、年々と減少傾向にあり、2022年度は過去5年間で最も低値であった。（※表-1）しかしながら、訪問リハの実施件数（延べ件数）は前年に比較すると大きく増加した。（※表-2）新型コロナウイルスの影響も大きくあったが、利用の休止はなく、利用控えも年々と減少傾向にある。

2. 宇城地域リハ広域支援センター

（1）地域リハビリテーション研修会開催

1回目）2022.10.7 家族介護について考える

Zoom配信

2回目）2023.2.24 明日から出来る簡単筋トレ！

Zoom配信

（2）出張相談事業（関係機関および事業所への出張相談対応）

年間18件実施（リハビリプログラム・家屋改修などに関する相談対応）

（3）地域リハビリテーション連絡会・事業所連絡会の開催

年間3回開催（事業所連絡会2回・宇城市地域リハ連絡会1回）

（4）介護予防・日常生活支援総合事業（2022年度筋力up教室開催）

【筋力up教室の参加状況の推移】

表-3 延べ参加人数の推移

年度	2018	2019	2020	2021	2022
延べ参加人数	532	615	376	456	508

（5）宇城市地域リハビリテーション活動支援事業

【宇城市地域リーダー育成事業参加者数】

2022年度 参加者5名 3名の地域リーダー（ボランティアの育成）

（6）上天草市における広域支援センター活動の拡大

会議出席・地域ケア会議・専門職派遣事業など開始

宇城地域リハ広域支援センターの業務において、2020年度以降新型コロナウイルスの感染状況に応じながら、また感染対策を行いながらの運営を余儀なくされている。しかし、筋力アップ教室などにおいては、市町村と密接に連携をとりながら開催しており2022年度は「中止期間」なく遂行することが出来た。

研修会や連絡会においてはICTを活用した会議が定着化し、参加の際の利便性の良さからも出席者は増えてきている。今後の運用においてハイブリッド研修・会議など検討していきたい。

また、上天草市方面での専門職派遣などの依頼も少しずつ増えてきている。今後も市町村・包括支援センター・関係事業所と協力し地域リハビリテーションの普及・啓発に努めたい。

3. 通所リハビリテーション

（1）通所リハビリテーション利用登録者数

登録者数128件（男性54名、女性71名 平均年齢83.5歳（男性81.4歳、女性85.0歳））

通所リハ利用登録者数の推移

表-4 通所リハ利用登録者数の推移

年度	2018	2019	2020	2021	2022
依頼件数	130	124	126	118	125

通所リハ延べ利用者数の推移

表-5 延べ利用者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	380	372	410	357	338	370	387	410	380	365	435	515	4,719
2021	338	330	356	358	276	352	389	417	400	409	410	483	4,518
2020	515	414	390	377	366	368	431	411	445	421	432	471	5,041
2019	517	547	492	580	531	570	599	549	514	503	548	545	6,495
2018	362	384	372	406	418	406	492	489	437	446	462	510	5,184

2019年度以降、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、利用者数は減少傾向にあったが、利用登録者及び延べ利用者も前年度を上回った。

背景としては、感染拡大の影響を受けながらも、事業の継続が成されたこと、また、withコロナ（アフターコロナ）に徐々に移行し、介護サービスに対する利用控えが薄れてきたこと、地域住民の介護ニーズの増大などが考えられる。

現在、一日平均利用者数は20名程度と増加改善傾向にある。事業の安定稼働に向け、人員体制を整え、利用者やその家族のニーズに通所リハとして積極的に応えていきたい。

通所リハビリテーションの効果（利用者の要介護度維持改善率）

対象：2022年度中に通所リハビリテーションを利用中であった
90名（男性35名、女性55名）

平均年齢：83.0歳（男性84.0歳、女性80.0歳）

表-6 維持改善率

年度	2022		2021	
	人数	%	人数	%
改善	5	5.6	9	13.8
維持	74	82.22	46	70.7
悪化	11	12.22	10	15.3
維持改善	90	87.78	65	84.5

維持改善率：87.7% 前年比3.28ポイントup

改善率は前年度と比較して8.2ポイント低下、維持率は11.5ポイント向上、また、悪化率は3.1ポイント低下した。維持改善率は87.7%であり、高い数値を維持できている。

【3.今後の課題】

当院周辺における高齢化および人口減少などに伴い、地域・在宅生活を送るために解決すべき地域課題も複雑化し難渋することが増えてきている。このような状況の中で、地域の住人と地域を支援していくためには、それぞれの事業の強みを強化し、それぞれの課題を支え合う、院内および院外、そして地域の「連携」が非常に重要になってくる。

当院の有する在宅リハビリテーション事業は、通所リハビリ、訪問リハビリ、介護予防事業があるが、これらの事業だけで地域や地域住人の生活を支援するには限界がある。

しかし、それぞれの事業が院内連携をもって情報を共有し、強みや課題を強め、改善する業務改善活動は可能である。また、それぞれの事業が構築した関係機関や市町村との連携を共有し、それぞれの事業における業務改善やサービスの再編につなげることが出来れば、当院の在宅リハビリテーションサービスの質の向上のみならず、地域包括ケアシステムの構築にも十分貢献することが出来る。

次年度は、足元の入退院時の居宅介護支援事業所すみや病棟との院内連携を今一度見直し、また居宅介護支援事業所や地域包括支援センターなど関係機関および市町村との連携をそれぞれの立場から見直すことによって、当院在宅リハビリテーション事業のさらなる成長と、宇城市、上天草市など当院周辺地域の地域包括ケアシステムの構築にも貢献していきたいと思っている。